2025 年 9 月【國利議員】一般質問　文字起こし

上野総合公園周辺の活性化について

[00:00] 議長：

休憩前に引き続き会議を再開します。

次の質問に移ります。

[00:07] 國利知史議員：

（登壇）

[00:25] 國利知史議員：

議席番号 8 番、会派ネクストの國利知史でございます。

議長のお許しを得ましたので、通告に従って質問をさせていただきます。

上野総合公園周辺の活性化についてお伺いいたします。

上野総合公園周辺は上野池、陸上競技場、食彩館夢さくら、ラフォーレ庄原といった本市を代表する大型の施設がそろう場所であります。

また、中国自動車道庄原インターチェンジからも近く、県内外からの観光客も訪れ、交流の拠点であるとも言えます。

この場所で計画されていた子供たちと多世代の集いの場整備事業は、前市長の子育て新政策の 1 つとしての事業でありますが、八谷市長はこの事業の見直しについて明言されております。

市長はこの見直しについて市民に説明する必要があると同時に、所信表明ではなかった八谷市長の子育て支援策についての法旨をなるべく早い時期に市面に市民に示すことが重要であると感じますが見解をお伺いいたします。

以降の質問は質問席にて行います。

[01:52] 市長：

（登壇）

[02:06] 市長：

ご質問にお答えいたします。

子供たちと多世代の集いの場整備事業につきましては、町内での検討や市民の皆さんからのご意見等を踏まえ、レジャー要素も盛り込んだ子育て支援策として進められてきたものでございます。

しかしながら、大型遊具の整備などで多額の経費を費やす事業でありながら、近隣の類似施設と比較して小規模であり、子育て支援のための施設として見た場合、その効果が限定的であると判断したため、内容を一部見直すことといたしました。

なお、具体的な見直し内容につきましては、現在精査中であることから、関連補正予算の提案段階におきまして市民の皆さんにもご理解をいただけるよう説明をいたしてまいります。

私は、本市の将来像として、安心な暮らしが充実し、庄原に関わる人の未来が繋がっていく町を掲げさせていただきました。

その柱の１つである安心な暮らしの充実の実現には、安心して子供を産み育てるための施策が重要であると考えております。

私自身のこれまでの子育て経験に加え、この度の市長就任の過程において多くの子育て家庭の方からの声をお聞きする中で、本市における子育て支援施策は、妊娠出産期から保育、学童期に至るまで一定水準以上のレベルで担保されていると感じております。

こうした認識のもと、事態官の競争に視点を置いた保育料軽減措置や乳幼児等医療費助成の対象年齢拡大などの施策展開は適当ではないと考えており、むしろ本市の財産である豊かな自然、市民の温かな心、高齢者を始めとした世代官のつながりなどを基盤とした子育て環境の強みを生かし、多様なライフスタイルに応じた子育て家庭への支援を図ってまいります。

引き続き、子育て家庭のニーズや社会情勢の変化等を適切に把握しながら、必要な事業やサポートにつなげる連携体制をこれまで以上に強化し、トータルとして安心感や満足感、庄原で子育てすることの喜びを感じていただけるよう、本市の子供たちとその家庭を支えてまいりたいと考えております。

以上です。

[04:59] 國利知史議員：

今の御答弁で、市長のですね、子育て支援策の方針をお聞きすることができました。

この方針をもにですね、具体的な施策というのは今後計画に反映されてくるんだという思いを持ちました。

今後の計画に大きな期待を寄せておきます。

それで、この事業に関しては、議会で賛否も大きく分かれた事業でもありまして、先日、議員に対しての見直しの説明はありましたけれども、市民に対しての説明はございませんでした。

で、この事業に関しては、パブリックコメントを実施して、市民に意見を求めた事業でもありますし、期待する声が少なからずあったということも記憶をしております。

市長は、所信表明で、常に市民目線に立ち、徹底した情報共有に努め、市民と行政をつなぐことを市政の重要な視点に位置づけられている以上は、例えば、今の状況をですね、ホームページで公開するなどですね、やはり市民の目線に立って、徹底した情報共有に努めていただきたいと思いますが、見解をお伺いいたします。

[06:27] 企画課長：

はい、ご質問にお答えをいたします。

議員の方からはホームページ等で、そうした経緯の説明はどうかということでございますが、これに関しましては、まだちょっとですね、詳細な見直し内容につきましては、まだちょっと検討中のところがございますので、全てがどうなるかというところは、この場では申し上げられませんが、これ以外に何もしないということかどうかっていうところも含めてですね、ちょっと今、十分検討しているところでございますので、そのようにご理解をいただければという風に思います。

はい、検討中というところでしか言いようがないんですけれども、効果があるようなものは、しっかりとですね、組み立てていきたいというふうに考えております。

[06:56] 國利知史議員：

今検討中ということなんで、今は特になにか考えがあるというようなことではないと理解してよろしいですか。

今後の町内での話し合い次第ということになるというふうな理解でよろしいですか。

効果があるものは組み立てていくということで答弁をいただきました。

それで、次に 2 つ目に移ります。

2002 年 4 月にオープンした食彩館夢さくらは、今年で開業 23 年目を迎えております。

新鮮な庄原の野菜や特産品が購入できるということで、開業 mRNA から多くのお客様に利用され、庄原市の観光スポットの 1 つとなってまいりました。

しかし、開業 23 年目を迎え、入館者の減少などが進み、さらなる魅力化や今後の方針などを検討する時期に来ていると感じます。

食彩館夢さくらの現状と課題、今後の法旨についてお伺いいたします。

[09:27] 市長：

ご質問にお答えいたします。

食彩館庄原夢桜は総合交流拠点施設として、農産物加工、販売施設や地域食材を使った飲食店、情報発信コーナー等を融資、市民、観光客の休憩やお食事、お土産物の勾配などに多くの利用をいただいております。

現在の運営状況でございますが、直近 3 年の入間者数では、令和 4 年度 18 万 2138 人、令和 5 年度 17 万 3322 人、令和 6 年度 16 万 862 人と減少傾向となっております。

また、売上については全店舗の合計で、令和 4 年度で 2 億 6708 万円、令和 5 年度 2 億 614 万円、令和 6 年度 2 億 4844 万円で、こちらも減少傾向となっております。

店舗別の来客数、売上では横ばいや回復基調の店舗もある中で、三直位置は減少が続いており、高齢化による出荷者の減少等から出荷数、出荷品目の減少、時間帯によっては品薄になるなどといった問題がございます。

本来であれば施設の集客の中核を担うべき三直市の低迷が施設全体の売上の伸び悩みの主な原因となっているものと考えております。

三直市の運営方針については、現在市と出荷者協議会、運営支援を行っている広島農業、指定管理者との間で協議を行っており、運営方針の大幅な見直しも含め、必要な対策の検討を進めております。

早期に改善策を具体化し、賑わいを取り戻せるよう取り組んでまいります。

この他にも開業から 23 年を経過し、施設の老朽化も課題となっております。

近年では駐車場舗装の打ち換え、ウッドデッキの修繕を実施するなど、順次必要な回収を行っておりますが、今後も多額の費用がかかることが見込まれますので、計画的な修繕、設備更新に努めてまいります。

以上です。

[12:18] 國利知史議員：

はい、夢桜のですね、来客者数の報告をいただきましたけれども、夢桜全体の来客者数ですけれども、今御答弁あったようにずっと減り続けているということで、オープンした当初が 26 万 5878 人、それから、数年後の平成 19 年の 31 万 4630 人、これがピークになっておりまして、毎年右肩下がり、回復することなくですね、ほぼ右肩下がりで減ってきているという状況でございます。

この減り続けている状況を市としてどのようにお考えになられているのか、再度御答弁お願いいたします。

現在の朝一の出荷者数なんですが、これ会員数で申しますと、現在令和 6 年度 349 人で、令和 5 年度が 337 人で、会員数は増えているのは現状なのですが、実際にですね、出荷をされている方に着いては 200 人程度で推移しているという風に考えております。

で、ピーク時の何パーセントかと言われるとですね、ちょっと難しいのですが、令和 6 年度が 349 人、令和 5 年度が 337 人、令和 4 年度が 324 人ということで、会員数については年々増えてきているというのが現状でございます。

夢桜のですね、大規模なリニューアル工事の計画があるかという質問でございますが、他の地域にもですね、道の駅や三直地域もそれぞれ問題を抱えておりますので、そちらも踏まえてですね、施設運営や施設整備の方向性も考えていかないと考えております。

ですので、答弁にもありましたように計画的な修繕は進めていくのですが、今の時点でのリニューアルの計画についてはございません。

はい、確かにですね、夢桜の他にもですね、周辺部にも素晴らしい道の駅はたくさんあります。

で、しかしながらですね、やはり、周辺部ももちろんそうなんですけど、庄原市の中心部ですよね、中心部で、市街から来られたお客さんが新鮮な野菜を変える、やはり場所というのは必要であろうかなと思いますんで、やはりですね、以前の賑わいが取り戻せるような、計画、夢桜の賑わいが取り戻せるような計画をこれからまた長期総合計画に、はめ込んでいただきたいというふうに思いますけれども、再度見解をお伺いいたします。

[13:16] 商工観光課長：

はい、ご質問にお答えします。

議員のおっしゃる通り、平成 19 年の 34 万 630 人をピークに右肩下がりにですね、減少傾向をして、それに歯止めがかかっていないのが現状と捉えております。

この現状ですが、答弁にもありましたように朝一の出荷者の高齢化に伴う出荷量の低下などもございまして、魅力の低下、マンネリ化なども、店舗などもですね、マンネリ化などもあると考えております。

はい、今ちょっと聞いてびっくりしたんですけど、出荷者数が増えている状況にありながら、出荷品目が少なくなっているということは、考えられることといたしましては、出荷者の出荷先、登録はしているけれども、出荷先が夢桜ではなくて、道の駅高野とか、別の店舗に出荷をされているんじゃないかなということが推測されます。

で、やはり生産者の気持ちとしては売れる店舗に出荷したいというのが自然な考え方だと思うんですけれども、やはり、夢桜はですね、開業 23 年ということで、それ以降ですね、一度もリニューアルを、リニューアル工事をされていないというふうに認識をしておりますけれども、店内もですね、ちょっとやはり、新しさを感じないというか、古さを感じるという状況にあろうかと思いますけれども、今後、先ほど修繕、計画的にやっていくということは御答弁ありましたけれども、売れる店舗づくりのためのリニューアル工事というのは、計画というか、考えは終わりなのかどうかお伺いしたいと思います。

[18:32] 市長：

はい、ご質問にお答えをいたします。

食菜館庄原夢咲に関する個別の対応につきましては、先ほども答弁いたしました通りでございますが、一方、市内全域に目を向け

ますと、夢桜や道の駅高野を含め、道の駅直産、三直市等の類似施設が合わせて 6 つ設置されております。

施設ごとの課題を抱えるとと共に、地域全体の効率的な農産物の集荷や販売等、施設官の連携も十分とは言えない状況でございます。

今後、一次産業を基盤産業とする 1 つとして、農産物の販売による収益向上の方策を検討すると共に、収益向上を図るための各施設の課題整理を進めてまいりたいと考えております。

[19:26] 國利知史議員：

はい、今おっしゃいましたようにですね、市長はですね、一次産業について、基盤産業として再生を果たすというふに所信表明でも言われておりますんで、やはり、夢桜だけではないんですけれども、やはりですね、庄原の生産者、新規収納者を増やすとかですね、やはりそういった生産量を増やす取り組みももちろん必要だとは思うんですけれども、そういう新規収納者の方々がですね、やっぱり売れる場所、そういう売れる場所づくりのためのですね、修繕などの計画もですね、ぜひ立てていただきたいというふうにお願いをしておきます。

3 つ目ですが、日本郵便から取得した大野の里ラフォーレ庄原は、令和 4 年 4 月 1 日にオープンしてから 4 年目を迎えております。

新型コロナウイルス感染症も収束し、人々が日常を取り戻した現在の大野の里ラフォーレ庄原の現状と課題、また今後の大規模修繕や改修の計画についてお伺いいたします。

[20:38] 市長：

ご質問にお答えいたします。

大野の里ラフォーレ庄原の現状でございますが、令和 4 年度の利用者数が宿泊 2 万 3118 人、入浴宴会等の日帰り 5 万 9720 人、令和 5 年度は宿泊 2 万 5448 人、日帰り 7 万 8358 人、令和 6 年度は宿泊 2 万 3246 人、日帰り 8 万 2726 人となっております。

コロナ禍以前、令和元年度の漢方の里庄原の利用者数が宿泊 3 万 2974 人、日帰り 7 万 6983 人でしたので、日帰り利用

者数については回復している状況でございます。

日帰り利用者数が回復した要因は、大浴場の片方のミストサウナを集客力の高いドラウサウナに回収したこと、おもちゃの設置や入浴剤の企画などの指定管理者による工夫が好評を得ていることなどが考えられます。

一方、宿泊利用者数については、コロナ禍以前の水準までは回復しておりません。

要因といたしまして、本市を訪れる観光客数が以前の水準までは回復していない状況であるとともに、その他にも需要が多い洋室の数が少ないといった顧客ニーズとのミスマッチもあると思われます。

今後は宿泊者数のさらなる回復に向けまして実施を予定しております分析調査を通じ、解決策を検討してまいります。

調査におきましては、市が取り組むべき集客力強化に資する機能向上のための回収の検討や目標数値を明確にし、指定管理者と協力連携して施設の魅力化、実績の向上に取り組むこととしております。

また、施設設備の状況については、建設から 25 年を超え、老朽化が進んでおります。

改めて的確な状況把握に努め、修繕回収計画を策定し、計画的な整備を実施してまいります。

以上です。

[23:18] 國利知史議員：

はい。

今御答弁いただきまして、宿泊者は減っていて、日帰りの客は増えてるということでございました。

で、8 月 21 日の議員全員協議会での、説明によりますと、取得時の想定と実際の経営状況の間にギャップが生じているということでしたけれども、どのようなギャップが生じているのかお伺いしたいと思います。

[23:48] 商工観光課長：

はい、ご質問にお答えします。

取得時、で、令和 2 年度に調査をした時に、取得時のコンサルが予測した売上と比較して 2 割以上低いというようなことになっております。

また取得時は、赤字を出さずにやっていけるという風な見込みでございましたが、それが赤字になっているという風なギャップが生じているということです。

[24:18] 國利知史議員：

はい。

ギャップが生じている原因ということを分析されていられるでしょうか、お伺いいたします。

[24:32] 商工観光課長：

はい、ご質問にお答えします。

その当時コンサルから提案のあった、設備のリニューアルとか、宿泊料の引き上げ等の提案がありましたが、そちらの方が未実施となっておりまして、特にですね、洋室化とかいう部分について未実施というところがですね、そういったギャップが生じている原因だと考えております。

[24:58] 國利知史議員：

はい。

今おっしゃいましたようにですね、今まで宿泊客が減ってきている要因としては、やはりお客さんのニーズ、客層も変わってきておりますんで、昔のような和室というよりは、やはりビジネス客が多くなった今に、今に関しましては洋室という需要が高くなってると思いますんで、順次計画的にですね、取り組んでいただければとお願いをしておきます。

それで一方でですね、日帰りの利用客は増加しているということで、その要因として、先ほどご説明いただきましたドライサウナが大きな要因であろうということで、私もそのようには思っております。

それでですね、もう一方のミストサウナの件も先ほどちょっと言われましたけど、この辺のスケジュール的なところで言いますと、改修を考えられてはいるとは思うんですが、どのようなスケジュールで、行う予定なのかお伺いしたいと思います。

[25:34] 商工観光課長：

はい、ご質問にお答えします。

現在の洋室と和室のですね、稼働率を比較しても、洋室の稼働率が高いことで、洋室の必要性が高いことは分かっておりますので、順次ですね、洋室化について検討はしていきたいと思います。

が、有利な財源をですね、使えるものがあれば使いたいと思っておりますので、そういったものを使って、使いながら、順次計画していきたいと考えております。

はい、ご質問にお答えします。

未利用のお休み処、鉄板とかの部分ですが、お休み処につきましては、現在、土曜日曜の祝日はですね、休憩所として開けている現状がございます。

また鉄板焼きの元あったところについては、現在では考えておりませんが、どちらの施設もですね、指定管理者が管理しておりますので、指定管理者の方で、どのようにやっていただくかというのを考えてもらうのが望ましいんですが、今のラフォーレにつきましては、いかにしてですね、宿泊者を増やしていくというのが一番の課題となっておりますので、まずはそちらの課題の方を重点的にやっていきたいと考えてはおります。

[26:57] 國利知史議員：

はい、確かにですね、夢桜の他にもですね、周辺部にも素晴らしい道の駅はたくさんあります。

で、しかしながらですね、やはり、周辺部ももちろんそうなんですけど、庄原市の中心部ですよね、中心部で、市街から来られたお客さんが新鮮な野菜を変える、やはり場所というのは必要であろうかなと思いますんで、やはりですね、以前の賑わいが取り戻せるような、計画、夢桜の賑わいが取り戻せるような計画をこれからまた長期総合計画に、はめ込んでいただきたいというふうに思いますけれども、再度見解をお伺いいたします。

はい、基本的には指定管理者の方で、判断されて、指定管理者の方で計画を立てて、売上を取っていくという方向が望ましいと思うんですけども、やはり、市もですね、一緒になって、どうしたら、お客さんが増えるかですね、そういったところをしっかりとして管理者さんと協議をしてですね、より良い施設にしていっていただきたいというふうな思いを持ちますけれども、最後に、もう一度良い施設にお互い協議しながら、良い施設にしていっていただきたいと思ってますけれども、その点について御答弁を再度お願いいたします。

[28:30] 國利知史議員：

その値上げをするとですね、せっかく増えた日帰りのお客さんが、特に地元の方が減ってくるんじゃないかなという懸念を抱いてしまいますけれども、それに対しての対応策はお考えになられているのか、お伺いしたいと思います。

[28:56] 商工観光課長：

はい、ご質問にお答えします。

日帰り利用が増えているということで、庄原市民が、たくさん利用してですね、健康増進に役立っていると認識しております。

ですから、地元市民が利用された場合は、現在庄原市民の泰範が所有していると思われるナミカホロカカードを利用した際にはですね、値上がり分のポイントを還元して、実質負担増はゼロとなるようなポイント利用を考えておりまして、そのポイントもによって市内経済の循環を図りたいと考えてはおります。

[29:38] 國利知史議員：

はい。

値上げはおそらく 200 円ぐらい値上げされるのかなという風な印象持ってますけども、結構なポイント付与ということで、今印象を持ちました。

ただ、何かほとんど何かホロか持っておられるとは思うんですけども、持っておられない方もいらっしゃると思うんで、その辺のところの、ご検討もお願いをしておきたいというふに思います。

それとですね、私が 1 つ課題として、感じているのは、お休みどころですとか、お好み焼き屋ですね、そういった未利用の施設が、うまく利用できていないということが、課題としてあげられるんじゃないかなと思います。

が、その未利用に関しての、お考え、協議されているのかどうか、お伺いしたいと思います。

はい、機関宿泊施設ということでですね、市民の皆さんの利用、それから、宿泊者が、これよりもさらに増えるようなですね、取り組みを期待をしておきます。

次に移ります。

本市は合併して 20 周年を迎えております。

合併前から各市町で管理されてきたスポーツ施設については、老朽化が目立つ施設も多く存在しております。

今後は老朽化している施設の廃止、新設、集約も含めて総合的に考えていく必要があると感じますけれども、今後のスポーツ施設の整備方針についてお伺いいたします。

[32:21] 教育長：

はい、ご質問にお答えします。

本市のスポーツ施設には、学校教育施設を始め、社会体育施設である体育館やプール、総合運動公園、スポーツ広場など多くの施設があります。

大半の施設は建設以来長期間が経過したものが多く、施設の維持管理費用の増大、老朽化対策が必要となってきています。

これまで、利用者の皆さんが気持ちよく活動できるよう、また、安心、安全に利用できるよう、周辺の環境整備も含めて、定期的にあるいは必要に応じて修繕、改修などを行ってきたところです。

さらに、中には経年劣化により老朽化が目立つ施設も出てきており、改善に向けた取り組みについて計画的に進めてきているところです。

第 2 期スポーツ推進計画におきましても、生涯にわたって誰もがスポーツに親しめる環境づくりを掲げており、社会体育施設の適切な維持管理や有効活用を重要施策として位置づけています。

今後の整備方針としましては、まずは安全性の確保に努め、適切な箇所への集約や機能の複合化について、また、利用実態やニーズ等も踏まえ、合わせて財政状況も勘案する中で、持続可能なスポーツ推進環境について検討してまいりたいと思っております。

[35:07] 國利知史議員：

はい。

持続可能なスポーツ施設の管理運営に努めていきたいということで御答弁いただきましたけども、まずですね、ちょっと細かいところか

ら聞いていきたいと思いますけれども、まずは、プールについてお伺いいたします。

今年の夏はですね、山野省学校と板橋省学校で、設備の不具合で、プールの授業、それから夏休みのプールの解放ができていないというふに認識をしておりますけれども、小学校のプールに関しての設備的な現状についてもう少し詳しくお伺いできればと思います。

[35:51] 教育総務課長：

はい、ご質問にお答えをいたします。

現在、庄原市内の小学校でプールを有している学校は 10 校ございます。

このうち 6 校が 40 年以上経過、うち 5 校が 50 年以上経過をしておるというところでございます。

また、その構造につきましては、古いものでしたらコンクリート像が、多くございます。

近年では、ステンレス製または FRP といったものも、整備をしておるところでございますが、コンクリート像につきましてはひび割れ等を、理由とする、漏水であったり、路加機の故障、または、排水管等の、からの漏水等が、ございまして、都度対応を行っているというところでございます。

[36:45] 國利知史議員：

はい、ありがとうございます。

それでは次にですね、庄原市民プールについてお伺いしたいと思いますけど、同じくですね、庄原市民プールは昭和 52 年建設だったと思うんですけれども、かなり、経年劣化が進んでいることが想像できますけれども、市民プールの状況についてお伺いしたいと思います。

[37:15] 生涯学習課長：

ご指摘の通り、庄原市民プールは建設から 40 年以上が経過しており、老朽化が進んでおります。

また、近年の猛暑によって利用に支障が出ている状況も見られます。

今後の施設のあり方につきましては、安全性や維持費、市民ニーズも踏まえ、公共施設等管理計画に基づき、検討を進めていきたいと考えております。

[38:07] 國利知史議員：

はい、先ほど、生涯学習課長の答弁にもありました、35°C 以上の、気温になることが最近はすごく多くなってきまして、もう暑すぎて、プールの授業ができないとか、市民プールの利用ができないという状況も起こってきていると認識しております。

で、このような状況への対策についてなにかお考えになられているのかどうかお伺いしたいと思います。

[38:36] 生涯学習課長：

ご質問にお答えします。

庄原市民プールにおきましては、やはりあの、先ほど議員もおっしゃいましたように、温度によって、開場するとか、開場しないとかということをしておりますが、今のところ、今年度は、市民プールについては、そのような状況は、ございませんでした。

はい、学校プールについてお答えをいたします。

國利議員ご指摘の通り、気温または水温等で、なかなか、水泳、授業について苦慮しているところでございますが、できるだけ 1 時間目なり、早い時間の授業により、水泳事業の方は確保しているという状況でございます。

[39:30] 國利知史議員：

はい。

それぞれ対応策を講じられているようです。

で、福山市教育委員会によるとですね、市内の学校の約半数が、今年度は、学校以外の屋内プールで授業をしたということでございます。

で、生徒はですね、バスでプールまで行って、指導はスイミングインストラクターが行うということで、専門的な指導で、水泳も上達するという事と、何より快適な環境で、プールの授業が、水泳の授業が受けれるということで、生徒さんにも好評であったという事でございます。

それから、また、生徒さんの移動に要する費用、それからプールの維持管理費なども含めて、経費的な面で見ても、それぞれの小学校でプールをやるよりはかなり抑えられているという記事を目にしました。

こういった他の自治体の事例もですね、調査して、今後の方針を協議していくことが必要であると感じますが、見解をお伺いいたします。

[40:42] 教育総務課長：

はい、ご質問にお答えをいたします。

議員から、ご紹介いただきましたように、福山市において、一部の学校で、社会体育施設や民間施設などの屋内プールで水泳事業を行っているということについては承知をしておるところでございます。

学校以外のプールで水泳事業を行うこととした場合のメリットといたしましては、議員からもご紹介ありましたように、学校プールの維持管理費や日々の点検などの必要がないこと、また天候や気温に関わらず計画的に授業が実施できるなどが挙げられます。

また、一方でデメリットとしては、バス等の送迎費用やその手配、移動時間によるロスを考慮した、全体的な事業時間の確保などが、課題となってまいります。

特に本市におきましては、水泳プールの、施設の箇所が限られるということもございまして、移動時間について、この調整というものが非常に大きな課題であろうかと思います。

こういったことを踏まえまして、各学校のプールの、老朽化等の、状況も考慮しながら、他市の事例も参考にし、今後の対応については検討してまいりたいと考えております。

[42:03] 議長：

國利議員、通告と若干ずれて質問になってますので、通告に沿って質問してください。

[42:08] 國利知史議員：

ずれてますか。

[42:09] 議長：

はい。

[42:17] 國利知史議員：

ちょっとよく分かりませんけども、施設的なところとちょっとずれているのかなというところだと思います。

水泳に関してはですね、本市はリオオリンピックで金メダルを取られた金藤理恵さんが生まれ育った町でございます。

で、オリンピック出場だけでも、これはすごいことだと思いますが、さらにですね、金メダルという世界一という実績を残されてます。

それで、実績を残されておりますけれども、それ以外にもですね、やはり本市にとって、プールの指導だったりとか、講演をいただくなど、スポーツ大使としても非常に、功績を、大きな功績を上げられております。

で、しかしながらですね、この庄原市には、金藤理恵さんの功績を称えるものがほとんどないというところも含めてですね、先ほどから言っております、老朽化、そしてこれからの、気候の変動に対する、屋内プールですね、の検討を、集約する、各小学校のプール、市民プールを集約するという意味も含めまして、これから考えていかなければならないのかなと思いますが見解をお伺いいたします。

[43:39] 生涯学習課長：

はい。

ご質問にお答えします。

オリンピックの金メダリストであります金藤理恵さんにつきましては、これまでも本市のスポーツ大使として子供たちに直接水泳指導を行っていただいたり、スポーツ推進に関する県大会や高等学校での講演会、スポーツフェスティバル開会式へ参加しての激励など、様々な機会、場面を通じて本市のためにご貢献いただいており、大変感謝をしているところでございます。

これからも引き続き、水泳を通して子供たちや市民の皆様に、水泳を始めとしてスポーツを行う楽しさや健康、体力づくりなど、やりがい、生きがいにつながるよう連携をしてまいります。

屋内プールにつきましては、近年の猛暑を考えますと必要性は感じております。

先ほどの教育長答弁にありました通り、様々な観点から研究してまいりたいと考えております。

[44:52] 國利知史議員：

はい。

ぜひご検討お願いいたします。

で、次に庄原総合体育館についてお伺いいたします。

近年の猛暑により、庄原体育館で熱中症になる方が出ておりまして、昨年は救急車で運ばれた方もいらっしゃったということです。

命に関わることが実際に起こってきてます。

それから、中学校 3 年生にとっては最後の大会、これバスケットだったと思います。

が、最後の大会も暑さのために、大会が中止になったという風なことも聞いております。

この状況をどのようにお考えになられているのかお伺いしたいと思います。

[45:39] 生涯学習課長：

はい。

ご質問にお答えします。

ここ 2、3 年これまでになかった猛暑が続いておりまして、総合体育館に限らず、どのスポーツ施設におきましても、熱中症の予防対策については、スポーツをしている人を始めとして、審判員や応援する人たちなど、関係者の皆さんにも注意を流し、水分補給や適度な休息を取ることも奨励し、体調の良くない時は決して無理をしないこともお願いをしております。

また、大型扇風機や大型冷風機などの活用も行っているところです。

しかし、熱中症のため病院で治療を受けられた方がおられたことは体育館の方から報告を受けております。

あまりにも暑い日は運動しないことも含め、体調管理の徹底と使用前の注意喚起、さらには水分補給の徹底も働きかける必要があるという風に思っております。

市民の皆様が安心して利用できるよう、引き続き安全対策に努めてまいりたいと考えております。

[46:50] 國利知史議員：

はい。

熱中症に関してはですね、重大事故が起こってからでは遅いということもありますので、エアコンの設置、庄原体育館に関しては、避難所という機能も持っておりますんで、エアコンの設置は必須なんじゃないかなと思います。

しかしながらですね、やっぱりエアコンの設置ということになるとかなり経費もお金もかかってくるということ、それからアリーナは、体育館のアリーナですけれども、こちらの床もですね、老朽化していて、張り替えの時期に来ているということでもございます。

本当に 4 億 5 億というような大きな、お金が動くことになろうかと思いますけれども、今後の改修費用ですとか、維持管理費なども総合的に考えると、新しく建設した方がいいという議論にもなろうかと思いますけれども、庄原市総合体育館のについてのお考え、お伺いしたいと思います。

[47:50] 生涯学習課長：

ご質問にお答えします。

庄原市総合体育館の床の張り替えやエアコンの設置などの整備につきましては、計画的に行わなければならないと考えております。

建て替えということになりますと、市の公共施設等総合管理計画に基づき、市全体の施設整備のことも合わせて検討していく必要があるかと思っております。

[48:22] 國利知史議員：

はい、次に移ります。

総合、上野総合公園エリアは大型スポーツ施設や温泉などの観光施設が揃ったエリアであり、地元の方々の利用はもちろん、県外からの交流人口、関係人口を増やすためには重要なエリアであります。

それぞれの施設が相乗効果を生み出すような方向性を長期総合計画に示していく必要があると感じますが、見解をお伺いします。

[48:50] 市長：

ご質問にお答えいたします。

上野総合公園周辺には多様な施設が集積し、市民の皆様はもとより、県内外から多くの人々が訪れる重要なエリアであると認識をいたしております。

これまで答弁いたしました通り、各々の施設の設置目的やターゲットとする利用者層などが異なっていることから、まずは、近接した各施設の能力が十分に発揮され、それぞれに立地を生かした効果が生まれるよう検討すると共に、その成果が利用者数や収益などの実績として現れ、可能な連携が一層進んでいくよう研究を重ねてまいりたいと考えております。

以上です。

[49:46] 國利知史議員：

はい。

研究を進めていただけるということで、ご答弁いただきましたけれども、まず私は、この上野総合公園周辺の施設、様々今日質問してまいりましたけれども、この場所がですね、相乗効果を生み出すためには、まずこの場所にですね、より多くの人を集めなければならない、そういふうに思っております。

執行者として、その考え方についてはどのようにお考えでしょうか。

[50:15] 企画課長：

はい、ご質問にお答えいたします。

人を集める必要があるということに着いては、同様の認識を持っております。

市長答弁にもありました通り、それぞれですね、魅力向上に向けた取り組みというのも、今後も予定をしておりますので、そうしたことをしっかりと進めていきたいという風に考えております。

[50:44] 國利知史議員：

はい。

より多くの人を、お客様を集めるということが必要だというふうに認識をしていらっしゃるようですので、これからの話に期待をしておきますけれども、私はですね、この場所により多くの人を集めるのに 1 つだけ足りないものがあると思います。

それは、これもまた大きな話になりますけれども、人工芝の多目的グラウンド、これがやはりあるとないとでは全然違ってくるというふうに思います。

人工芝の整備はですね、非常に、周辺の市町で進んでおりまして、本市の周辺で言いますと、福山市、尾道市、神石高原町、それから、府中市の上下、三次市、安芸高田市、もちろん広島、それから東広島、呉にも全部あります。

そういった状況で、本市は本当に遅れを取っている、そういう状況だと思います。

こういう状況をどのようにお考えになられているのかというところと、今まで一度も、人工芝についての議論がなかったのかどうかお伺いしたいと思います。

[51:59] 事務担当副市長：

ご質問にお答えします。

確かに人工芝のグランドは、県内にもたくさんできておりまして、そういう意味で申しますと、我々の、その、市としての競争力を高めたりとか、あるいは市民の皆様方の、なんて言うんですか、期待に答えるという意味では、考慮の余地もあるのかなと思いますけれども、もう一方で考えなきゃいけないのは、ずっと、お話をしております通り、人口減少してですね、で、これに伴って財政状況とも厳しい、あまりお金がないないとというな言いたくないんですけども、全ての施設をフルセットで我々の市が持ち、それを管理していくことが将来的にできるのかっていうようなことは、よくよく考えていく必要があるなというふうに思っております。

もちろん、他の町にあれば、近隣のところにあれば、それはぜひ欲しいとおっしゃる、思いがあるというのも受け止めなきゃいけないと思いますけども、一方で他に人工芝のグランドよりも、もっと他に市民の皆さんが希望されているものとか、あるものがあるとすれば、そちらを優先する必要があるというふうに考えております。

そういったところはしっかり考えていかなきゃいけないのかなというふうに思っております。

人工芝のグランドについては、現時点では検討している状況はございません。

[53:29] 國利知史議員：

はい、完全に遅れを取っているということだけは申し伝えておきます。

で、ですね、お金がないお金がないと、いうふうに庄原市言ってますけれども、やはりですね、今、この庄原市は市民の皆さんが本当にこう閉塞感漂ってるんですよね。

で、お金がない、お金がないと、言って、市民、市役所、もちろんそうなんですけど、こう執行者、市役所側がですね、そういうふうに言うとですね、やはり庄原市民の方も、あ、やっぱりそうなのかっていうふうに、本当にこう暗い話題しかなくなってしまうんですよね。

で、これ八谷市長が市長に就任されて、これガラっと変えるチャンスなんですよ。

ちょっとお金をかけても、先ほどの人工芝にしてもですね、全部出せとはいうわけじゃない。

日本サッカー協会の補助金がある、都ともある、それから、防災に絡めれば防災の補助金も使えるというふうに、やり方次第でですね、なんとでも、何でもなると思うんですよ。

そういう大きい計画をこれから、10 年間かけて、作っていっていただきたいという思いを私は持ってます。

ですので、今までの、今日市長が言われました、今までの延長線上で、政策を考えるのではなくて、もう新しい庄原にチャレンジしてもらいたいと思うんですよ。

お金かかっても、10 年間かけて、長期総合計画にはめ込んでいけば、いいと思うんですよね。

そういうマイナスなことばっかり言ってとったら、庄原ダメになると思うんですよ。

ということで、ちょっと質問、考えていたことが、ちょっと全部言えなかったんですけど、これで一般質問終わりますけど、そういう大きいことにチャレンジをしていただきたいというふうに思います。

私の質問は終わります。

以上です。

[55:27] 議長：

以上で國利知史議員の質問を終わります。

この際、暫時休憩いたします。

再開は午後 1 時 10 分といたします。